



日本の地方都市と済州との観光交流 ワークショップに参加しました

안녕하세요 (アンニョンハセヨ) !

今年度から新しくクレアソウル事務所に派遣になりました、飯村恵理子と申します。これから、この「ソウル駐在員通信」のコーナーで、韓国における駐在生活の一部をご紹介しますと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4月に始まった2年間にわたるソウル生活も、あっという間に3ヶ月が過ぎてしまいました。振り返ってみると、赴任する前は、韓国と日本は似ている部分が多いので、生活もそれほど大変ではないだろうと思っていました。しかし、実際にソウルでの生活が始まると、その考えは甘かったことに気づかされました。

似ているけれども、やはり韓国は韓国。生活スタイルも価値観も、日常のちょっとした出来事のひとつをとっても、同じだと考えていると多くのすれ違いにぶつかります。でも、これは当たり前のことであって、自分の考えや価値観がすべてだと思っていると、どこであろうとうまくいきませんよね。外国という異文化の中で生活することを甘くみていた私は、その考えを改めるまで少し時間がかかりすぎたようです。

今では、違うところは違うところとして受け入れることができるようになってきました。少し視野が広がったおかげで、韓国の人々のあたたかさにも気づくことができるようになり、今はこれからもっと韓国人の友人を増やしていきたいと思っています。



クァンファムン
【事務所前、光化門広場方面】

さて、6月13、14日の2日間、^{チェジュ}濟州島というところで行われた「日本の地方都市と濟州との観光交流増進策共同ワークショップ」に参加してきましたので、その様子をご紹介しますと思います。

^{チェジュ}【濟州島の概要】

まず、濟州島について簡単にご紹介します。濟州島は、行政区域でいうと「濟州特別自治道」と呼ばれています。朝鮮半島南端部にある火山島で、面積は日本の香川県と同じくらいです。人口は約60万人ですが、2013年の観光客数は約1,085万人（うち外国人約233万人）と、島の人口を大きく超える人数が訪れています。世界遺産である漢羅（ハルラ）山をはじめ、島独特の自然や文化が残されており、地域産業としても観光業が大きな柱となっています。



【トレッキング「オルレ」で盛り上がる、日韓の意見交換】

今回、在濟州日本国総領事館の主催によりこのワークショップが開催され、韓国国内に駐在している日本の公務員の方々が参加しました。

まず、日韓両国からそれぞれの国の地方における観光分野での交流増進策について発表がありました。

日本からは、当事務所次長が発表者となり、日本の地方における姉妹都市交流やスポーツ交流等の国際交流事例を交え、今後の日韓における交流増進の必要性についてデータに基づいた説明がなされました。韓国からは、韓国文化観光研究院の金香子専任研究委員より、日韓観光交流の望ましい方向性について、官民協働による多角的な取り組みや新たな視点による訴求力のある商品開発、外交摩擦に対する対応戦略の検討など幅広いご意見を伺いました。

発表の後は、参加者によるパネルディスカッションが行われました。日本の参加者から各地の交流事例や抱える課題、特に東日本大震災後の観光客数減少や財政面での課題等について率直な発言があり、韓国側の参加者が大きくなるべく姿も見られ、日韓両国の理解促進が一気に深まったような空気が感じられました。また、「オルレ」と呼ばれるトレッキングを通じた観光交流について、両国が熱く盛り上がったのも印象的でした。オルレ



濟州商工会議所にて

は濟州島の発祥ですが、最近、日本の九州地域でも「九州オルレ」と呼ばれるトレッキングコースが誕生し、日本だけでなく韓国からも多くの観光客が訪れるようになったそうです。「オルレ」を通じた今後の日韓の観光交流増進に大きな期待が寄せられました。

個人的には、「交流の継続」「青少年交流」がキーワードになると感じました。また、官民の協力をどのように進めていくかが交流増進の鍵になっていくのではないかと考えました。

【濟州島の観光を実体験】

翌日は、朝から実際に濟州島の観光インフラを体験するエクスカージョンが行われました。いくつかあるコースのうち、私は「カシリ村」という地域を中心にまわるコースに参加しました。まず、カシリ村にある「菜の花プラザ」において、アン・ボンス村長より村おこしの取組みについてお話を伺いました。

カシリ村は約 450 世帯 1200 人の村で、「住民参加」を土台にしたボトムアップ式の村おこしを実践しています。観光客に楽しんでもらえる村づくりの前提として、村の豊かな自然や文化と一体となった生活ができる環境が整っていると感じられました。

この村では、住民の積極的な参加と村のビジョンに対する理解促進のおかげで、観光客に対する「おもてなし」が成功しているといえます。村に設置したカフェも、住民の集いの場であるだけでなく、そこに人々が集まることで住民の参加意識を高めたり、広報にも活用するなど村全体の意思形成に役立っています。村では「何度も訪問してもらえる村」を目指し、観光客の満足のために努力を惜しみません。

菜の花による村おこしについては、日本の青森県横浜町の取り組みをモデルにしているとのこと、視察のために何度も訪れたそうです。また、日本の地方自治体と新たな交流を展開したいとお話もありました。

村長のお話と表情から、温かい人柄と熱心さが伝わってきて、カシリ村がより身近に思えました。



菜の花プラザ

(菜の花ではありませんがコスモスに似た黄色い花が綺麗でした)

村長との懇談の後は、「タラピオルム」という噴火口の頂上を目指すトレッキングに挑戦です。現地ガイドさん、村長も一緒に登ります。最初は生い茂る木々の中を緩やかに進んでいきます。オルムへのコースは元々国営の牧場だった敷地の周囲に設置されており、今も牛が放牧されていて、コースの途中で突然数頭の牛が現れるサプライズもありました。

オルムが近づくにつれてだんだん傾斜が厳しくなっていきます。山登り、というよりは、ひたすら階段を上っていく感覚…日も高くなり汗が止まりません。しかし、頂上まで登りきると、360度のパノラマにカシリの美しく広大な緑の大地が広がっていました！周りからは風と虫の声しか聞こえない、まさに大自然を満喫することができました。あいにく湿気でもやががかかっており、遠くまで見晴らすことはできませんでしたが、またリベンジしに来たいと思わせるコースでした。

トレッキングのあとは、お待ちかねの昼食です。濟州島名物、黒豚のサムギョプサルをいただきました。韓国に来てから食べた豚肉の中で一番おいしかったです！茨城県もローズポークが有名ですが、同じくらい臭みのない上品な甘さを味わうことができました。

その後、馬博物館（昔、モンゴルから馬を連れてきて濟州の地で育てられたことから設置）などいくつかの観光地を案内いただき、夕方に濟州空港で解散となりました。有名な日出岬には時間の関係で行けずに残念でしたが、久しぶりに自然の中で過ごせただけでなく、濟州島の人々の温かい歓迎を受けることができたことが何よりも心に残りました。

観光資源はどんな地域にも作ることはできますが、それを活かせるかどうかは、やはり地域の人々の理解と努力にあるということを感じました。今後の茨城県の観光交流、国際交流につながる勉強をさせていただけたことに感謝します。



カシリの大地



遠くに霞む日出岬